

## 語り合いから和歌山における保幼小をつなぐ —自立心に着目して—

○丁子かおる（和歌山大学教育学部）高橋多美子（和歌山大学教育学部）  
池田彦男（九度山町立九度山小学校・幼稚園） 岩橋照恵（和歌山市立加太小学校・幼稚園）  
楠見良子（じろうまるこども園）西原和哉（和歌山市立湊幼稚園）西原咲子（かぜのご保育園）  
山下悦子（和歌山中央幼稚園）

《協力：内海三千代（和歌山市立西和佐幼稚園） 柏木京子（九度山町立九度山幼稚園）

坂前千晴（和歌山市立宮前幼稚園）丸谷友美子（和歌山市立紀伊幼稚園） 塚本茉暉（教育学部4年生）

本研究は、「和歌山の保幼小を語る会」として、和歌山における乳幼児から幼児、児童を対象とする保育園、こども園、幼稚園、小学校との円滑な接続に向けて、また、質的改善に向けて気づきや課題を語り合うことで、互いの教育観を共有していく会として6年間を通して協議を重ねてきた。これまで、保育場面の映像を基にした協議、1歳から小学校6年年生までの子どもの絵を通しての話し合い、視点や接続への対策についての協議など、多様なアプローチで和歌山の保幼小を話し合ってきた。そこで、今回は、幼稚園教育要領等が改訂され記載されるようになった「幼児期の終わりまでに育てたい姿」（10の姿）が、幼児教育の指導において考慮及び小学校の教師との共有が求められるようになったことから、これについて着目し、中でも、近年、幼児期に特に重視されている「社会性」と「自己調整力」に強く関わる「自立心」について焦点を絞り、「保幼小で円滑な接続に向けて共有したいことを話し合うことにした。以下は、これに関わるテーマで協議内容をまとめている。

幼児期の終わりまでに育てたい姿（10の姿）

(1)健康な心と体 (2)自立心 (3)協調性  
(4)道徳性・規範意識の芽生え (5)社会との関わり  
(6)思考力の芽生え (7)自然との関わり・生命尊重 (8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 (9)言葉による伝え合い (10)豊かな感性と表現  
「(2)自立心 身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。」文部省『幼稚園教育要領解説』2018,p.56

### 口子どもの主体性を保幼小でどう捉えるか？

・本研究会では、幼保こ小で保育者・教員が子どもを育む思いは共通であると感じてきた。ただし、内容に違いがあると感じている。幼稚園教育要領総則には「主体的な活動」「遊びを通して」「一人一人の発達」という語があることから、幼稚園では子どもが主体的に遊ぶ中で育つ保育を日々、大切にしている。そこで、主体的をどのように捉えたらよいか、園で餅つきをした事例からどのように捉えるかが協議となった。餅つきは、子どもが自分からやりたいといってする活動ではないが楽しい行事である。同様に、小学校の基本の単元学習は、計画的に設定された学習であるが「主体的」な学習活動という。

・小学校での学習内容も単元の構成の仕方によっては主体的になる。教師が生活科で「昔遊び」を地域の高齢者に教えてもらうような場合でも、行事をこなすための内容として進めると子どもは主体性を持ってない。子どもが「おじいちゃん、おばあちゃんに聞きたいな・・・。」と思えるように教師はそれまでに道筋をつける。幼稚園でも、教育計画でお店さんの時期だからお店屋さんをするのではなく、子どもたちが遊んでいて「たくさんつくったからお店にしよう！」と、お店をつくるのと同じ考え方である。子どもの声を聞きながら行事に取り組んでいくことで、子どもは自分のやったことに満足感や達成感が得られる。このように考えると、子どもの主体性は幼保のように内容だけでなく、小学校では経験の仕方、進め方といった活動のやり方で子どもが主体的に取組めるよう

にしている。

・最近では、お店見学にいけるお店が減ってしまったことや発達の違いを考慮し、幼稚園でもお店屋さんをする子どもたちはいるが、みんなですることは少なくなったという意見があった。また、子どもの生活経験の減少によって（例えば魚屋さんが魚を売っている姿を見た子どもから再現して遊ぼうとする子どもの姿がかつてはあったが）、現在は遊びが広がりにくく、保育者が枠組みをつくってあげることも考えるようになったという意見もあった。このことから、近年は、子どもの主体性や自発性を保育者が尊重しすぎて保育が深まらないことも増えているという意見が共有された。子どもに任せすぎてしまうのではなく、保育者は環境を整えたり、材料を用意して子どもの好奇心をくすぐってみたりすることが必要である。幼稚園で保育者は、物の環境を中心に整えるが、（活動全体の）状況を整えることを忘れがちである。そのため、発達につながらない、遊びが深まらないことがある。物的環境のみならず、全体状況を環境として整えていくことが求められる。

#### □自己調整力を育む遊び

・公立幼稚園では、自由に使える空き箱やプラスチックトレイなどの雑材を置いているので、こうした雑材をつかって遊ぶなかでイメージをつくっている子どもが多い。遊びは、子どもにゆだねられて1年中つくっている幼児の姿がある。12月の現在は、つくったものを飾っている。

・参加者の保育園では、4歳児クラスで自己調整力が弱くクラスが荒れていたことがあった。子どもは生活の中でもできないことが多くて自信も持ててなかった。ある日、その子どもが雑材をテープで貼って何かをつくったところ、それが友達から認められた。その出来事からその子どもは、「自分もできる！！」と自信を持つようになり、変わっていったという。そして、自信がついていくと同時に、自己調整力もついてきた。

・ただし、参加者の園ではないが、雑材をつかわず、決められた材料・方法でつくる遊びをしている園で育った子どもの例では、つくることが好きでも考える力が弱いようであるという子どもの例も報告された。

・幼児教育が「環境を通して」行われるようになって約30年経った。変わった時は、一斉保育から自由保育が増えて、自由を放任と捉え間違えた例も多くあり、小1プロブレムが問題になっていた。ただし、現在の参加者の小学校では、1年生の子ども達も、問題解決の話し合いを自分たちでしたり、よく話も聞いている姿がある。

#### □保幼小間での引き継ぎ及び交流

・小学校が隣接する幼稚園の保育者は、就学後の小学校の教育の様子をみたくて体育の授業をみせてもらうことがあるという報告があり、連携を行ってれば、その後の子どもの様子も確かめられているという話があった。

・小学校では、幼稚園で行っている子どもを認めて育てる教育が引き継がれない場合がある。小学校教師は幼稚園よりも一人一人に関わる機会を持ちにくいと、ほめるタイミングを逃してしまう場合もある。ほめるタイミングを日頃より心がけることが必要である。

・参加者の幼稚園では、併設する小学校の校長・教頭先生は幼稚園によく見に来ているが、小1担任の先生がくることはないという。参加によっては、午後に共同で園内研修をすれば、小学校の教員も参加できるという声もある。また、多くの園から一つの小学校に就学する場合は、校長も園に子どもをみには来ないという現状も報告された。

#### □柔軟に保育を捉える

・保育者によっては、自分の中で子どもがすることを決めすぎているので、子どもに考えたり試したりするような自由を与えない活動になってしまう。そして、子どもが保育者の思い通りにはでき

ないが、その理由に気が付かず（子どもに力がついでいないため）保育の質が低いと感じていることがある。研究会などで保育案を検討すると、そのような例はよくみられる。保育者が、自身の保育について、主任や仲間と本音で語り合うことができていないことに根本的な原因がある。例えばはさみの使用などのように、低年齢では特に子どもの発達に合わせて保育することが求められるが、キャリアの浅い保育者は、目の前のはさみを使えない子どもをみると（子どもができないので）「もっと、させないと！！」と手指の発達がゆるやかな場合でもそれに気づかずに思ってしまう。待つことが必要になるので、管理職としてはそのような様子を見たら保育者に「あわてないでいいよ。」と伝えるようにしているという事例が語られた。

#### □保育の質・教育の質と保護者

・この問題には、保護者が幼保現場や小学校に「子どもが〇〇できるようになる」ことを求めてくる現実が要因としてある。保護者も家庭で〇〇できるようにと、子どもに教育している。保護者が共に園をつくっていくという意識になっていないと、園に求めてくることが多い。また、そういった場合、保護者は自分たちがすべきことも園に任せたいと思っ

・そこで、保育者や教師は、子どもに「型」を教える。例えば、（子どもがいいたいという気持ちを待たずに）無理に「おはよう」といわせてしまう。型を教えることは、楽な指導である。保育者や教師は、次につなげられれば失敗してもいいので、子どもを型にはめないようにしてほしい。子どもが失敗するのは当たり前だから、失敗も大切である。失敗させないようにしてしまうことは保育者や教師の問題である。ただし、そうしてしまう保育者や教師からすれば、子どもが上手くできない場合にそれは自分のせいで、自分ができていないという評価になると思ってしまう。そこには、保育者や教師自身が失敗をして育ててきていないと

いう保育者や教師自身の育ちの問題もある。完璧を求める傾向が親にあるのでプレッシャーからか、自分がやってきた遊びを教えたらいいのに子どもとどうやって遊んだらいいのかわからないという。失敗しにくい世の中になっている。こうしたことも含めて、保幼小、そして、保護者が共通理解をして子どもを育てていくことが必要になっている。

#### □保護者の養育力を高める

・園では、楽しく踊っていた3歳児が、生活発表会当日になると「やりたくない」と泣いていたことがあった。母親に求められる「完璧な姿でない」といい、3歳にして親の前で自分を表せない子どもがいた。情報が早い時代なので、親はのびのびがいいと思いつつも、保護者は思い込みで多くを子どもに求めてしまうこともある。

・1歳児の離乳食を尋ねた際に、大人と同じにしている、ご飯に納豆をかき混ぜて食べさせていると答えた保護者もいた。情報は多いが、知っているようで知らないこともある。また、手づくりの食事を大切にしている保護者で、夕飯までお弁当箱に入れて用意するなど、まじめすぎて自分の決めたことから抜けられない保護者もいる。

・和歌山の学力問題が言われている。家庭の養育力に差があることが根本にある。子どもにとっては、生活力の上に学力があると思っている。そのため、参加者のこども園、保育園では、保護者に1歳児クラスの子どものから、保護者ではなく子ども自身が自分のかばんを持つように伝えている。子どもが小さいと保護者は子どもができることもさせないので、歩くことや物をもつことなど、自分でできるとはさせてくださいと伝えている。

・逆に、教育熱心な保護者や園が幼児期にひらがなの指導をしていても、小学校では2学期くらいになったら学力は追いつかれたり追い越されたりしている。勉強だけを求めても継続的な学力にはつながらない。保護者の養育力を高めるように保育者、教師は努める。

## □保育の評価について

・15年前は、子どもの伸びたところに丸をつける絶対評価の要録が幼稚園にはあったが、現在は標準を目指して一人一人の弱いところを援助し、指針をもって保育するようになった。そこでは、保育者の幼児理解が不可欠であり、見る目が問われている。この保育者の見る目が、子どもの資質につながる。

## □和歌山の教育が最も子どもが伸びるとされている自由と束縛の間の程よい教育になるにはどうしたらよいか？

・参加者の少人数の幼稚園では、子どもたちの遊びがつながりにくく、保育者の手が届いてしまうためか子どもたちに遊びへの意欲が少なくなる指導上の難しさがある。

・参加者の公立幼稚園では、入園してきた3歳児に子どもが遊びたくなる環境を整えて子どもから遊びにかかわっていくことを大切にしているが、別の参加者の私立幼稚園では最初は子どもによっては遊びだせないと考えて、好きな遊びの時間以外にも短時間でも一斉保育を行って遊びを体感できるようにして経験を増やしていくようにしている。入園時の考え方や対応に違いがあるものの、子どもが環境を通して自ら遊んでいくことを重視していることが分かる。よい保育は教師主導と子ども主導のバランスが大切という先の話からも、保育者は子どもの主体的な遊びを引き出すことをいずれも大切としているといえる。

## ■ 結 論

・乳幼児から小さな成功体験が自信になっている。そして、自分の思いがあって大切にされるから、相手の思いを大切にできるようになるので、集団で保育をする意味がある。

・自立心は乳幼児から児童期まで継続して育てる。  
・各園ができることとして、公立園、私立園の垣根をとって公開保育や協議をして学びあえる機会

が県内で共有できればいい。ただし、現在は研究会をしたとしても、互いに意見を出し合って語り合うことが難しいこともある。広く話し合えるように意識を呼び掛けていきたい。

・保育者、教師は子どもをみとり、保育及び教育の質を高めていく取り組みが必要。そのために、SSTEW<sup>1</sup>などの保育の評価スケールや要領や指針をゆるやかに捉えて、各自が目安として役立てるとともに、保育者、教師間で日々の保育や教育、多様な研修を通して共有する視点としておく。

## ☆保幼小で共有したいポイント

- 0～1歳は、「大好きな大人と一緒に！」を大切に、そして、友達とやりたいという心が動く経験へ。
- 3～5歳は、一人の成功経験から複数の成功経験になっていく。頼ることも幼児にとっては自立には欠かせない要素。
- 小学校では、「一人ができたらみんなでできるように。友達の力」を大切に作る。
- ◎「大人や友達と関わって自立していくこと」が、

共同研究者及び研究協力者の先生方などに感謝を申し上げます。

<sup>1</sup> イラム・シラージ, デニス・キングストン, エドワード・メルウィッシュ『「保育プロセスの質」評価スケール 乳幼児期の「ともに考え、深め続けること」と情緒的な安定・安心』を捉えるために』明石書店, 2016